

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年実施分〕

【学習指導等】

生徒の「授業がわかりやすく楽しい」の肯定的評価は、昨年度とほぼ同水準で推移した（R6：77.4% → R7：76.2%）。授業満足度は高い水準を維持しており、授業規律の定着やモジュール授業・習熟度別授業など、基礎基本の定着を図る取組みが継続して成果を上げていると考えられる。

一方で、「授業でわからないことについて先生に質問しやすい」（R6：84.0% → R7：80.5%）や「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」（R6：78.5% → R7：73.6%）など、学習面・生活面での“個別に相談しやすい雰囲気”に関する項目はやや低下した。相談体制そのものは整備されているが、生徒がその存在を十分に活用できていない可能性があり、周知やアクセスのしやすさをさらに工夫する必要がある。

また、保護者の「授業が楽しくわかりやすいと言っている」の肯定的評価は依然として低く（R6：48.3% → R7：52.0%）、生徒との認識差が大きい。授業改善の取組みは進んでいるものの、その成果が保護者に十分伝わっていないことが背景にあると考えられ、授業の様子や学習の工夫を可視化する情報発信が求められる。

一方で、「教え方に工夫している先生が多い」（R6：92.8% → R7：88.1%）や「30 分授業は学び直しに役立っている」（R6：91.4% → R7：91.3%）など、エンパワメントスクールとしての特色ある学習活動は引き続き高く評価されている。また、「渡日生との交流や多文化理解の機会が多い」（R6：68.9% → R7：73.5%）は上昇しており、多文化共生を重視した本校の教育活動が生徒の実感として定着しつつある。

総じて、授業の質や学習環境は安定している一方、個別支援の丁寧さや保護者への情報発信に改善の余地が見られる。

【生徒指導等】

「学校生活についての先生の指導は納得できる」は昨年度と同水準で推移し（R6：75.8% → R7：75.8%）、生徒指導の一貫性が維持されている。また、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」（R6：81.7% → R7：82.7%）や「先生はいじめについて真剣に対応してくれる」（R6：86.1% → R7：84.7%）など、生徒の安心感に関わる項目は高い水準を保っている。

一方で、「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」（R6：78.5% → R7：73.6%）は低下しており、相談体制の“存在”は整っているものの、生徒が“利用しやすい”と感じる環境づくりが課題として浮かび上がる。SC・SSW の活用や相談室の開室などの取組みは進んでいるため、生徒への周知方法や相談の入り口の工夫が求められる。

保護者においては、「学校は相談に適切に応じてくれる」が上昇した一方、「学校は相談しやすい雰囲気である」（R6：63.9% → R7：65.8%）は微増にとどまり、「生徒指導の方針に共感できる」（R6：59.3% → R7：67.1%）は改善したものの、依然として評価は高くない。生徒指導の方針や具体的な対応を、より丁寧に説明し共有する必要がある。

教職員の評価では、「教育相談体制が整備されている」（R6：94.2% → R7：89.5%）や「問題行動への組織的対応が整っている」（R6：94.2% → R7：87.7%）など、依然として高い評価が維持されている。一方で、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」（R6：69.2% → R7：64.9%）は低下しており、生

徒理解の深化や丁寧な関わりについて、研修や校内共有の機会をさらに充実させる必要がある。

【学校運営等】

教職員の「この学校の教育活動について日常的によく話し合っている」（R6：78.8% → R7：82.5%）は上昇し、職員間のコミュニケーションは改善傾向にある。また、「職場の人間関係が相談しやすい」（R6：67.3% → R7：75.0%）も上昇しており、組織としての協働体制が強化されていることがうかがえる。

一方で、「授業方法等について検討する機会がある」（R6：63.5% → R7：56.1%）や「学校運営に教職員の意見が反映されている」（R6：69.2% → R7：54.4%）など、意思決定や授業改善に関する“対話の場”に課題が見られる。研究授業は実施されているものの、研究協議の機会が十分でないことが影響しており、授業改善の文化を再構築する必要がある。

保護者の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」は低下傾向から脱しておらず（R6：68.3% → R7：70.5% と微増したが R5：77.7%、R4：76.4%と比較すると低くなっている）、学校の取り組みや生徒の様子をより丁寧に伝える工夫が求められる。

一方で、「学校は特色や教育情報の提供に努めている」（R6：82.1% → R7：81.3%）や「デュアル実習は良い経験になる」（R6：91.0% → R7：87.3%）など、本校の特色教育に関する評価は引き続き高い。多文化理解やデュアルシステムなど、布施北高校ならではの教育活動は保護者・地域からも一定の信頼を得ている。

◆ 全体としての傾向

R6 で大きく改善した項目が多かった反動もあり、R7 では「高止まりしつつ微減」という傾向が見られる。しかし、授業満足度や学校生活満足度、多文化理解、デュアルシステムなど、本校の特色に関わる項目は引き続き高い評価を維持している。

一方で、

- 生徒の「相談しやすさ」
- 保護者への「情報発信」
- 教職員の「授業改善の対話の場」

といった領域に課題が見られ、来年度の学校経営計画における重点改善領域として位置づける必要がある。